

2013年4月24日

～パッションフルーツの種子から有効成分「ピセアタンノール」を取り出し、
健康素材として濃縮、精製することに成功～

アンチエイジング機能を有する健康素材「パセノール™」を新たに開発。

血流の改善、メラニン形成の抑制、自律神経機能改善による疲労感の緩和などの効果を確認

森永製菓株式会社（東京都港区芝、代表取締役社長・矢田雅之）は、健康分野における機能性素材の研究開発を推進してまいりました。このたび、パッションフルーツの種子が持つアンチエイジング機能を有するピセアタンノールに着目し、研究を重ね、種子から有効成分を取り出し、濃縮、精製することに成功しました。森永製菓独自の健康素材で「パセノール™（アルファベット表記：Passienol™）」と命名しました。企業理念である「おいしく たのしく すこやかに」の元に、“人々がいつまでも健康でいられるように尽くしたい”という情熱（Passion）が込められています。



Passienol™

「パセノール™」には、細胞実験や臨床試験を通して、血管の拡張作用による手足の冷え・肩こりの改善、コラーゲンの産生促進による肌荒れ予防や美白効果、自律神経機能の改善による疲労感の緩和など、様々な効果が確認されました。

当社では2006年から健康機能素材開発をテーマとして、植物の持つアンチエイジング機能を題材に研究を開始しました。パッションフルーツの種子に、ポリフェノールの一種ピセアタンノールが非常に豊富に含まれていることを発見。2010年には、パッションフルーツの種子から抽出したエキスに健康・美容面での効果があることを解明し、2012年にはその工業化に成功。このたび、そのパッションフルーツの種子から抽出したエキスを、森永製菓独自開発素材「パセノール™」として発表させていただきます。

また、2013年5月に開催の「第12回 国際バイオテクノロジー展／技術会議」や「第13回 FFC 国際会議」をはじめとした展示会や学会でも発表させていただきます。

今後も当社では、“パセノール™”の機能性研究や応用研究を推進し、よりよい商品の開発を進めてまいります。

【パセノール™の主な効果】

- ・動脈硬化状態の血管を柔軟に拡張・収縮／血流の改善（肩こり、手足の冷えに関する自覚症状の改善）
- ・身体の中からシミの素となるメラニン形成を抑制
- ・肌組織を整えるコラーゲンの産生促進／肌状態（保湿感、肌荒れ予防、美白）に関する自覚症状の改善
- ・自律神経機能の改善による疲労感やだるさの緩和

【今後の活動予定】

～展示会～

	展示会名	日時	場所	内容
1	BIOtech2013	5/8～10	東京ビッグサイト	パセノール™は、ピセアタンノールを有効成分とするアンチエイジング素材です。パッションフルーツ種子エキスの機能性に関する研究成果を紹介します。
2	ifia JAPAN 2013 HFE JAPAN 2013	5/15～17	東京ビッグサイト	同上

～学会～

	学会名	日時	場所	内容
1	13th International Conference of FFC - First International Symposium of ASFFBC:「Functional and Medical Foods with Bioactive Compounds: Science and Practical Application」(第13回 FFC国際会議): 京都	5/11～12	京都市立医科大学	①Passion Fruit Seed Extract and Piceatan-nol Has Potential Benefits for Vascular Property:ピセアタンノールの培養血管内皮細胞におけるeNOS(一酸化窒素合成酵素)誘導作用およびヒトでの血管弾力性改善作用 ②Passion Fruit Seed Extract and Piceatannol Suppress Blood Glucose Levels in Diabetic and Obese Model Mice:糖尿病モデルマウスおよび肥満モデルマウスにおけるピセアタンノールの血糖降下作用
2	第67回 日本栄養・食糧学会大会	5/24～26	名古屋大学	①パッションフルーツ種子エキス(ピセアタンノール)(1)－原料化と各種試験の検討 ②パッションフルーツ種子エキス(ピセアタンノール)(2)－レスベラトロールとの経口吸収性の比較 ③パッションフルーツ種子エキス(ピセアタンノール)の基礎研究(3)－培養細胞におけるeNOS誘導作用の検討 ④パッションフルーツ種子エキス(ピセアタンノール)の基礎研究(4)－糖尿病および肥満モデルマウスにおける血糖降下作用 ⑤パッションフルーツ種子エキス(ピセアタンノール)の基礎研究(5)－表皮細胞でのUVB保護作用
3	7th ISANH World Congress on Polyphenols - Bonn Polyphenols 2013 (第7回国際抗酸化ポリフェノール学会)	6/6～7	ドイツ(ボン大学)	①タイトル未定:ピセアタンノールとレスベラトロールの経口吸収性の比較 ②タイトル未定:パッションフルーツ種子中のピセアタンノール含有量について